

1 研究主題

自立した生き方を学ぶ学習の創造
—主体的に問いをつくり、主体的に対話を求め、主体的に概念化を図る学習—

本校の研究主題には、児童、教師、地域の方の願いをそれぞれ取り入れている。また、子どもたちに求められる力を「目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すこと」としている。令和4年度からは特に、「主体性」というキーワードを大切にしてい、研究を進めてきた。

直島小・中 外国語教育の目標
コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成

直島小・中学校では、外国語教育の目標を統一し、「コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成」としている。本校では、児童期特有の音への順応性や心の柔軟性を生かし、異なるものを受容し、認め合い、進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育成することが、外国語教育がめざす「生きる力」と捉えている。

2 研究の具体

本校では、授業の水準を一定以上に保ち、研究主題に迫るために、外国語・外国語活動を含む全ての授業において、直島小学校の学習スタンダード（下表）の流れを取り入れている。

教材との出会い	・違和感、想定外、夢、希望、あこがれ
問題作り	・気付きの言語化
自己内対話	・試行錯誤、登場人物と自分とを重ねる
他者との対話	・視点変更・追加、気づきの変化
概念化・振り返り	・生き方の獲得
個の発展学習	・次時への見通し、心構え

実験結果を比較して、自分の考えを根拠に基づいて述べ、結果を考察する場面。お互いの気づきを大切にして、協働的に解決を図っている。



3年 理科 風やゴムのはたらき

他者との対話

本校では、外国語教育の目標を達成するために、地域発信型単元を構成している。これは、外国語教育で学んだことを、総合的な学習の時間にあたる「ふるさと学習」と関連させて、地域に発信する取り組みである（右写真）。幼児学園から中学校まで系統時に続く外国語教育を大切にし、豊かな人的資源や観光資源等の地域の特色を存分に生かして、教育課程特例校として外国語教育に取り組んでいる。



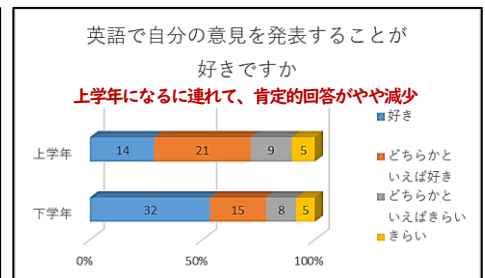
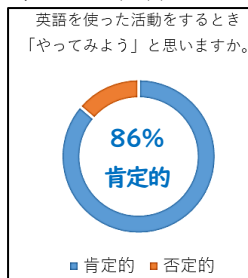
直島を訪れた外国人観光客と英語で交流する場面。相手意識を大切にして、コミュニケーションを図っている。

4年 地域発信型単元

3 成果と課題、今後の展望…（成果○、課題●、展望（展））

○ 全校児童のうち、86%の児童が英語を使った活動を「やってみよう」と思うなど、児童が自信をもって活動に取り組むことができた。（右円グラフ）

● 「英語で自分の意見を発表すること」のように、自分で考えて発信したり、自ら地域に貢献しようとしたりする態度の育成が必要である。（右棒グラフ）



令和6年7月実施 全校生対象の英語アンケートより

（展） 令和7年度より、児童が主体的に問いをつくり、単元で学んだことを地域に発信する地域発信型単元を発展させ、自分たちが主権者として地域にどのように貢献できるか考え、実行する「直島町づくり」単元を構築する。また、アンケートの結果にあるように、上学年になるにつれて、自分の意見を発表することに難しさを感じるという児童の実態を改善するために、教師の伴走者としての指導の在り方を研究し、全ての教科において、児童が主体となって活動する楽しさを味わえる授業づくりに取り組んでいきたい。